

No. 51

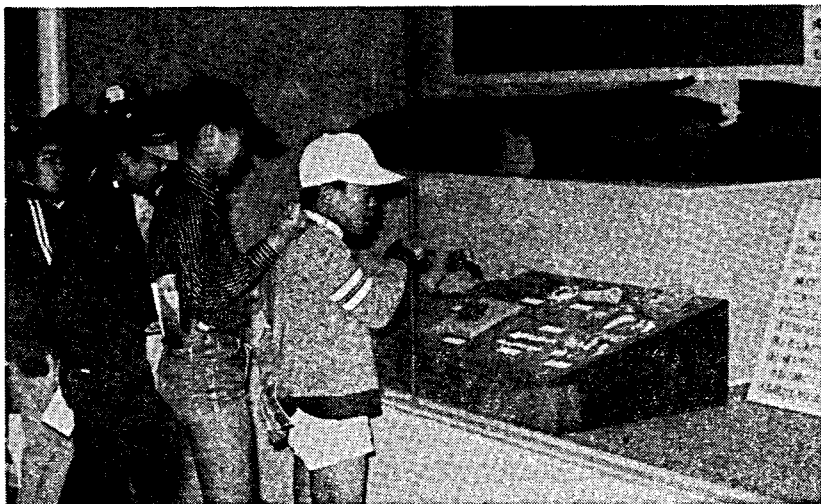
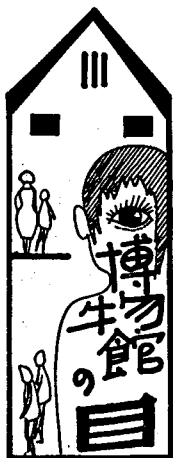
1980.

10. 25

岐阜の博物館

編集兼発行

▼501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL(05752)8-3111(代)
振替 名古屋 37909



博物館は単なる「子守番」ではない!!

野山に紅葉が訪れるのも今年は少し早そうだ。遠足に、行楽に絶好の季節となった。外に飛び出して自然を味わうのもよいものだ。

博物館に足を向けてくれる家族連れも増えた。何といっても面白くなければ博物館は駄目だ。新しい発見や喜びを求めて、こういう人々が来てくれることは嬉しい。

学校で習った知識に肉付けをしたり、校外に出ることによって得られる様々な教育効果をねらって、遠足の生徒による見学も多い時季である。

しかし、喜んでばかりいられない時もある。時として、恐しくマナーの悪い見学者たちが悪戯のし放題に、荒し回っていくからだ。

こういう時は、付添いの親や引率の教師のマナー(社会常識)に問題があるといえる。山や川の自然と同様、博物館も、これを喜び味わってくれる人々を待っている。しかし、無残にぶち壊していく乱暴者を見るのは悲しい。ここは

「劇場」だ。感動的なドラマを味わうために、そこに集う紳士淑女は、お互いの立場を尊重しあって損なわないようにすべきである。大人はもとより、未来を背負って立つこれからという児童・生徒たちは、展示物による学習はもとより、社会人としての教養・エチケットなどを学ばせる機会を作らねばならない。我々学芸員は、博学な見学者に接することは多くても、知識の乏しい人々あるいは子ども達に時間をさく余裕が無いことが多い。組織・人員の問題もあるだろうが、教師との連絡を密にして、何を学ばせるか、何を得ようとしているか、遠足(見学)の目的をはっきりさせ、せつかくの博物館との出会いを、むざむざ物見遊山に終わらせないようにしたいものだ。

そこで芽生えた小さな発見の眼で、彼らのまわりを生き生き眺めてくれるよう、学芸員と教師は、もっともっと協力しあってよいのではないだろうか。(K・H)

藤橋村郷土資料館

〒501-08 揖斐郡藤橋村大字西横山443

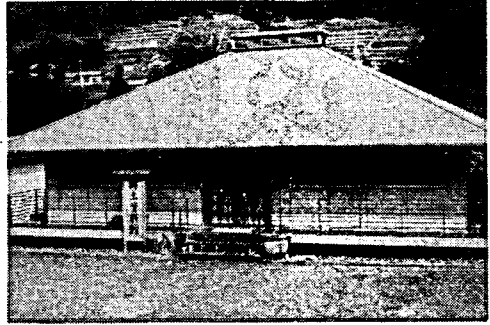
TEL (058552) 2111

横山ダムで名高い藤橋村は、村内の95%が山林で占められ、揖斐川にそって集落が存在する静かなただずまいの典型的な山村です。それだけに、この地に住み、この山国の自然の中で、自然をうまく利用し、自然とたたかいながら、生み出した生活用具——民具の宝庫でもありました。

しかし、社会の進展、生活様式の急変は、ここでも例外ではなく、人々の暮しを支え、生きづいてきた民具の数々は、どんどん失なわれていくばかりでした。そんな折、昭和47年10月に、村制実施50周年記念事業として建設されたのがこの藤橋村郷土資料館でした。

それまでに、村内有志の集まりである「郷土を良くする会」が活動しており、昭和46年には文化祭が開催されました。村民の中から多くの民俗資料が出品され、郷土に伝えられた失なわれゆく生活用具への再認識がなされました。そこには、ただ古い物、珍しい過去の遺物へのセンチメンタルな憧れだけではなく、これらの民具にしみついた生活の知恵を見直すことによって、人間の生きざまに感動するとともに、明

(館内の展示風景)



(資料館の全景)

日の郷土を良くする何かが見つかるのだという期待がありました。このことが、村をあげての資料館建設となり、県内各地の山村には、他に例をみないすばらしい資料館の誕生となったのです。鉄骨造平家建、アスファルトシングル葺、建物面積105㎡、収蔵展示品は、山村における生活用具が主体で、雪具・養蚕・林業・農業・宗教など多様にわたり約500点、中でも「濃州横山川藤橋図」「濃州大野郡岐礼庄東横山村絵図」は見逃がせない目玉展示品です。

杉原ダムの計画もあり、杉原地区70数戸は移転を余儀なくされようとしているだけに、今後とも古文書・民具等の資料収集は大きな課題となっています。残念なことには、どこの町村でも、こうした施設は出来るものの、専属の職員が確保できないために、地域住民と結びついたきめ細かな日常的教育活動がなされないことです。資料館を作り、貴重な文化財等を保管しても、死蔵するだけでは、学校は作ったものの先生が不在と同じことです。全県的に、この面での基盤整備が忘れられているのではないのでしょうか。

開館は午前9時～午後4時30分、専属職員が不在のため、見学に先立って役場へ連絡すること、入館料は無料です。日曜・祭日は休館日。利用者の便を考え、正月3ヶ日、お盆の8月15・16日は、臨時に勤務者が配属されますので事前連絡の必要がありません。

近鉄揖斐駅より近鉄バス川上・広瀬・杉原各方面行で「東横山」下車、揖斐川の対岸へ橋を渡れば約200mです。

下野郷土館

▽ 508-02

恵那郡福岡町644 下野小学校内

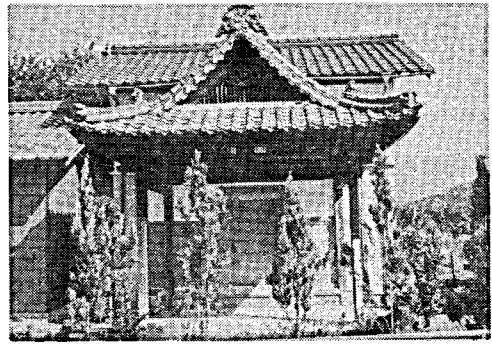
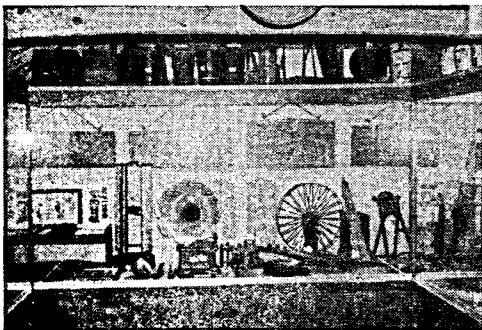
TEL <057372>2054

“ふるさと”ばやりで、郷土の歴史・民俗への関心の呼び起こしが、いたるところで進められています。父母が祖父母が、そして多くの祖先人たちが、このふるさとの大地の中で、どのように生き暮してきたのか、その人間の歴史はただ町誌村誌に書き残されるだけでいいものでしょうか。その土地に、将来を生きる子どもたちのためには、まず具体的な「もの」でもって、過去の重みを実感として伝えることが大切です。

「百聞は一見にしかず」はわかっているも、学校の社会科・理科学習では、写真・図表・スライド・TV・映画等の視聴覚教材を活用することには多大の努力がなされていても、「本物～実物」を通して知る楽しみをふまえた授業過程は、まだまだ手薄といっているようです。

この下野郷土館は、児童の学習資料の整備をもとに、郷土誌編さんの参考にする意図から出発したもので、まだまだ未発達な「学校博物館」のひとつとして、今後が大いに注目されます。昭和42年正月、当時の木原拓郎校長・安江武教頭らの提唱によって、区内の民俗資料展が開催されました。その出品物の中から寄附・借用の民俗資料を、学校内にあった土蔵を改造して郷土館としたもので、昭和53年度に、新校舎建築に伴い、校舎北側に移動させました。旧校舎の

(展示室のようす)



(正面入口)

玄関を新しく郷土館正面玄関として移したもので、旧校舎の面影を残すとともに、これ自体が展示資料となっているし、郷土館にふさわしい雰囲気をかもし出しています。

児童の社会科学習の資料館として活用されており、一般の人々の利用は、殆どないという現状のようですが、「学校博物館」としての性格を浮きぼりにして、その面での運用・教育活動の実践研究を積み重ねられたら、我が国でも、まだまだ立ち遅れた分野であるだけに、他に例をみない先駆の学校博物館実践研究報告が期待されます。

明方村博物館は、やはり中学校の資料室を出発的として、今では全国的にも類をみない特異な村立博物館へと発達した好先例です。県内各地で、こうした地味な博物館づくり及び教育実践がなされてこそ、地域に息づいた地域文化の時代到来といえるはずで、民俗資料に限らず、全ての博物館資料は、その土地に保存され、その土地の人々の文化生活と未来の創造に役立つ資料として活用されてこそ、生きてくるものです。まだまだ収めきれない資料もあり、現在の二階だけの展示室も狭いとのこと、博物館学の理念にそって、地道に着実に充実がはかられることを声を大にして期待したい。そうした歩みの中から、近い将来、福岡町立のすばらしい郷土博物館が生まれてくるにちがいません。そのためには「もの」を生かす、まず博物館人をより多く確保することです。

北恵那バス下付知行、恵北農協前下車 徒歩15分。 随時見学可。無料です。

岐阜市少年科学センターの教育普及活動

岐阜市少年科学センター館長 竹村 信 弘

今年の5月オープンした少年科学センターは、皆様に多年御愛顧をたまわりました児童科学館が生まれ変わったものです。ここで「館」から、「センター」と名前が変わりました。館というとはやはり博物館のイメージで展示を見るところという感じがし、センターというとなんか教育センターの様に教育の場であるような感じを受ける気がします。しかし、実際にはそういう事を考えて名前がつけられたのではなく、機能的には児童科学館とかわりはありません。新しいセンターは展示面積も前よりはるかに広くなり、又科学教室もより完備して、工作教室、実験学習室、学習室の外に図書室、多目的ホールなどを持っており、展示以外の教育活動も前にくらべて格段と盛んに行なえます。

それでは、当センターで行なっているいろいろの科学教室又は科学クラブ的なものについてご紹介することにします。

科学教室、岐阜市子ども電気教室……1年に前期と後期と各々2回行ないます。1期6日間（大体月に1回開催し、原則として日曜日に行なう）1日2時間授業でコースは終了します。募集については、すべて市内の小中学校を通じて各学校何名までとして募集します。すべての学校が最大人数で申し込んでくるとは限らないので各校何名までとするか、見当をつけるのがむつかしいところです。

講座名	対象	定員	組数
電子工作教室	中学1年と小学6年	120名	3組
化学実験教室	小学6年	80名	2組
生物実習教室	小学6年	80名	2組
地学実習教室	小学5年	80名	2組
岐阜市子ども電気教室	小学6年	100名	2組

＊この中で電子工作教室が一番人気がある

ようです。なお、子ども電気教室は中部電力が主になって講座を開いています。



（夏休み科学教室。FMワイヤレスマイクの製作）

夏休み科学教室……夏休み科学教室はすべて1日でそのコースをおわります。1日では充分ではないのですが、なるべく多くの希望者を受け入れるためにこのようになっています。

講座名	対象	定員	組数
科学工作	小学5年	120名	3組
電子ブザーの製作	小学6年	120名	3組
石の見わけ方	小学5年	120名	2組
植物・昆虫の観察	小学6年	120名	2組
4石ラジオの製作	小学6年	120名	3組
FMワイヤレスマイクの製作	小学6年と中学	120名	3組
七宝焼	小学6年と中学	160名	4組

＊七宝焼については科学教材としてはどうかと思われませんが、特に女子に人気があるので女子の参加をふやす意味で行なっています。

少年少女発明クラブ……このクラブは発明協会にかかわるもので、小学5年生対象で定員は

70名、2クラス編成で 大体月に1回2時間半授業を行なっています。1年間でコースを終わりと、2年目からはOBクラスを編成します。

科学作品相談室……これは児童科学館ができた当初からずっと引きつづいており、夏休み中の毎週金曜日の午後開設しております。講師は約5名、市内の小中学校の先生に依頼し、夫々

専門の分野で児童生徒の科学作品や研究記録の助言指導を行なっています。今年は夏休み中の金曜日に6回行ない、延べ167名の子供が参加しました。

以上が現在当センターが行なっている展示活動以外の教育活動のあらましですが、何らかの参考になれば幸甚と存じ筆を擱きます。

三県博物館協会交流研究会に参加して

岐阜県博物館教育普及係長 鈴木 正太郎



(発表中のひだ自然館山腰 悟氏)

去る9月29日・30日の両日、三重厚生年金休暇センターを会場にして、三県の交流研究会が開催された。当日の参加者は、愛知県が14人、岐阜県側が10人、三重県側が22人、計46人であった。

第1日は、午後1時半から中村幸昭先生(鳥羽水族館長)の挨拶で始まり、増井恪夫先生(三重県立博物館長)の司会で、研究会が進められた。

研究発表は、溝口豊先生(愛知県陶磁資料館副館長)による「陶磁資料館の建設から現在まで」、山腰悟先生(ひだ自然館長)による「化石の宝庫福地に生きる」、片山悟先生(長島熱帯植物園係長)による「へびの繁殖について」であった。

どの発表も充実した内容であったが、特に、貴重な化石標本を数多く持参されて、一つ一つ手にとってもらって話された山腰先生の発表は、最近の化石ブームも反映して、非常に好評であ

った。発表後の質疑応答では、他館との情報交換のあり方や、天然記念物の保全対策などがとりあげられ、討議が深められた。

記念講演は、鈴木敏成先生(毎日放送文化館部長)による「親しまれる博物館」であった。放送文化館では、「生きている展示」をめざしてガラスケース類は一切撤去されている。これは近くにある民族学博物館との協力提携によって推進されたものという。

展示構成は、見せてやる立場でなく、自由にさわられる立場をとっている。展示物の保全については、多少の損失があるが、そのことを恐れてはいない。高価な物については、紐で一方を固定しているが、それだけで効果があり、開館以来目立った損失は一件もない。

生きている展示のためには、たゞさわられるだけでなく、立体的な場の構成も工夫している。時代劇の小道具コーナーでは、時代背景を示す大きな絵の前に、刀やお籠を並べ、自由に手にもって、即興劇を楽しんでもらう場としている。

文化館の入館者は、月平均7,000人であるが、何よりも人間的なサービスの提供に心掛けている。雨降りの入館者に対しては、濡れた衣服を見かけたら一寸乾してあげるとか、コンパニオンは何時も入館者の中に入って一緒に遊ぶとか、専門的な質問には、後から調べて手紙で答えるとか……こうした小さなサービスが口コミとなって、宣伝費なしの当館を支えている。

来館のお客様に、如何に満足して帰ってもら

うかは、文化館の最も大切にしている課題である。何か楽しみを得て帰ってもらえれば、必ずまた訪ねていただける。当館の入館者の40パーセントは、2回以上訪れた方である。アンケートの用紙の一端にクイズをつけて、一寸した賞品を贈ったり、映画づくりの体験学習会を開いたり……楽しみのあるイベント(行事)づくりに懸命である。

以上が、講演内容の要旨であるが、時代の先端をいく放送文化館の実践内容は説得力があり、その斬新さは、これからの博物館を示唆するよう思えた。

講演後、夜の懇談会に続いて深夜まで、熱心な情報交換・討議・親睦がなされた。

第2日は、バスで内宮(特別参拝)、金剛証寺宝物館、二見浦熱帯植物水族館などの見学があり、次回、愛知県での再会を約して、無事全日程を終了した。

今回の愛知県では、「今までとは全く変わった趣向でとり組みたい」という声があった。この声に期待したい。当番県が、よりよい企画を模索し合っていくことは、交流の一層の充実を図る上で、何よりも必要なことであろう。

全国博物館大会に参加して

岐阜県博物館 学芸員 小野木 三 郎



(熊本市民会館での全体会)



(みゆき会館での第三分科会)
資料収集と博物館

● 大会決議～国への要望決定

第28回全国博物館大会は、去る10月7・8日、約250人の参加を得て、熊本市民会館を主会場に開催され、分科会の討議を経て次のような大会決議案が採択された。

博物館と地域社会における明日への発展をめざす文化活動のために、現在博物館が抱えている諸問題について研究討議の結果、次の事項について、その速やかな実現を国に対して要望する。

1. 資料収集における公私立博物館に対する各種税法上の優遇措置を国立博物館と同等とされたい。

2. 博物館施設活動促進費の増額及び複数の博物館が共同して行なう広域博物館活動(合同展覧収集調査等)に対して補助金を交付されたい。

3. 全国博物館の所有する資料に関する各種情報センターを設置されたい。

4. 国の資金を基金として併せて民間からの寄附を受け入れた「博物館振興財団」(仮称)の設立の促進を図られたい。

● 分科会

年々全国大会も参加者が増加し、徳川会長の閉会あいさつに「著しい発展・充実と、若がりを感じられ、今後への期待が絶大」とあった

ように、本大会は、新たなる博物館時代到来の幕開けを告げるものであった。大会テーマ「技術進歩に対する博物館の適応」をふまえ「情報伝達技術の近代化と博物館」「展示技術の進展と博物館」「資料収集と博物館」なる三分科会が開催されたが、正直云って、こうした全国大会に望むことが無理とはいえ、決して討論は活発とはいえず、きれいごとのたてまえ論に走りがちであった。悪条件の中で、孤立無援のまま、資料収集に、調査研究・展示・各種教育普及事業にと、日夜奮闘の博物館人が、年に一度とはいえ、こうして全国的に結集し、立場も条件も異なる種々雑多な諸問題をかかえながら、博物館としての使命追求を語り合えることは、参加者ひとりひとりの大きな励みの場である。

しかし、ここに結集できる参加者は、博物館人のごく一握りの人々にすぎないことも事実である。博物館ブームで、全国各地に大規模な公立博物館が続々と建設されてきた今日、日本の博物館界も、公教育機関としての性格面を著しく拡大させたが、その格差は、施設設備面だけでなく、内容・職員・事業活動といった質的な面でも顕著なものとなってきた。

● 全国大会に望む

こうした時代の流れを背景に、今、最も緊急最大の課題として、日本博物館協会に期待することは「質的な面での格差解消への諸施策」実現の努力ではないだろうか。来年度の全国大会は、博物館法制30周年を記念する東京大会である。30年という年月は流れたものの、「博物館法」はほんとうに法律として生きているのだら

≡ 事務局より ≡

昭和55年度の協会会費の納入ありがとうございました。まだ未納の館園・個人会員がありましたら、至急納入下さい。公立館園3,000円、私立館園2,500円、個人会員1,500円です。郵便振替名古屋87909 岐阜県博物館協会です。

うか。「ものがあり、学芸員がおり、そして建物があればさらに良い」という原点を思うとき、公教育機関としての博物館を支える学芸員とは何か、博物館が博物館として存続するための基盤整備、そのことをこそ先決課題とした全国大会を望みたい。

全ての面で、多種多様多岐にわたる博物館界だけに、解決されなければならない諸問題も複雑多用、それだけに、現在なお「机上の空文、死んだも当然」の博物館法に、真に生きて働きかける生命力をもたせること、そこにこそ制定30周年を記念する意義がある。どんなに優れた資料が豊富にあっても、また施設・設備がいかに立派であっても、それを機能・運営する博物館人の組織の確立がなかったならば、博物館法に描かれた博物館像は、いつまでたっても具現化されないし、博物館法などあっても無くてもどうでもいいものとさえ極言できる。

第29回全国博物館大会、博物館法制定30周年記念東京大会では、ぜひともこの根源的な未解決分野をこそ大会テーマにし、そのもとに分科会を持たれることを切望し、次のようなことを提言したい。

◎急激な社会構造の変化をふまえ、生涯教育を支える博物館職員組織の確立を中心課題に、具体的・現実味の強いテーマで、数多くの分科会を設ける。

◎公私立・人文自然・規模の大小を問わず、現場の第一線で悪戦苦闘している学芸員ひとりひとりが、少しでも多数集結できる記念大会及び分科会とする。

≡ 編集委員会より ≡

岐阜県内博物館所在絵地図及び改訂版岐阜県の博物館要覧用原稿アンケート、多数ご回答をいただきありがとうございました。未提出の館園等は、大至急送付下さいますよう、再度ご依頼申し上げます。

岐阜県博物館 特別展・
資料紹介へどうぞ！

特別展 蓑虫山人 10月17日～11月16日

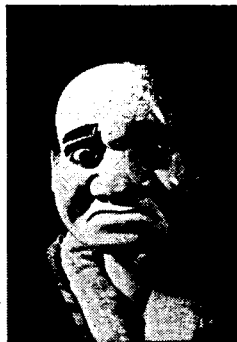


明治期に活躍した郷土出身の特異な画家、蓑虫山人の旅と絵で綴った漂泊の生涯を、ぜひご覧下さい。また会

期中の11月14日(金)には、第3回岐阜県博物館協会博物館学セミナーが、安藤直太郎相山女学園大学教授を招き、岐阜県博物館で開催されます。10時から受付です。多数お出かけ下さい。

資料紹介 人形浄瑠璃 12月16日～2月1日

七宗町神岡の春日神社から寄託されている人形浄瑠璃の首・衣裳・小道具・幕などの諸資料を体形的に展示紹介します。通常の入館料のみでご覧いただけます。



蓑虫山人絵日記 東海編 発刊！

蓑虫山人没後80周年を記念し、「蓑虫山人絵

日記 東海編」(カラー)が刊行されました。ご希望の方は、名古屋市中区栄三丁目9-30 栄山吉ビル7F ダゲール内 蓑虫山人絵日記保存会へ。一冊4,800円、郵便振替名古屋62751。

尾張美濃の絵日記が集録された心あたたまる楽しい絵本です。

吉田幸平濃飛甲冑研究所長(本会顧問)
のアメリカ便り(大略)

～ロスアンゼルス・カウンティの美術館で、熱海救世美術館の浮世絵原画展が、10月23日から12月7日までのロングラン、過日のTVでは「將軍」が放映され視聴率55%と、ルーツに続く評判、小生のことも取材全米放映され、お陰様で日本への認識が高まっています。目下大学院で講義中ですが、受講生中アメリカ西本願寺の僧と元女優の二人の日本人が目につきます。10月24日～11月5日までICOMメキシコ大会に、メキシコ・シティに行きます。広瀬鎮先生と会えるのをお互いに楽しみにしています。

一時体調を悪くし、検査入院しましたが、1週間で約33万円、目から火が出る程払いましたが、元気に教壇で頑張っています。

聖護院門跡大先達 合掌

お便りは下記へどうぞ。

Dr. Kohei Yoshida

University of Oriental Studies
939 South New Hampshire Ave.
Los Angeles, California 90006
U. S. A

編集後記

◎公教育機関としての博物館の役割が、いよいよ重要視される時代となりました。再スタート岐阜市少年科学センターの実践、今後の教育活動が大いに注目されます。

◎規模の大小・公私にかかわらず、博物館は「物」を並べてみせるだけでは、知的社会の訪問者に満足されなくなりました。

(S.O)